

都市社会学分野 山本薫子研究室

山本薫子（ヤマモトカホルコ） 准教授

kahoruko (at) tmu.ac.jp

(at) を@に替えてください

社会学とは

- 人の集団（地域社会、企業、学校、グループなど）に着目し、関係性、意識、行動について実証的に研究

都市社会学の問いとは

- 現代の都市の社会の変化の実態や課題、その背景は何か
- 都市の社会の変化は人々の生活にどのようにかわるのか
- 私たちは都市の社会にどのように関与することができるか（実践、提案）

研究手法

- 社会調査： インタビュー・フィールドワークなどの質的調査、調査票調査による量的調査（統計的分析）、文献調査など

山本研究室 過去の修士論文（2010年度～）

- 「香川県直島における新規居住者の移住プロセスと社会的ネットワーク」
- 「さいたま市岩槻区におけるまちづくり活動の展開過程に関する研究 – 観光まちづくりに着目して–」
- 「放置型産業遺産の活用に向けた地域社会の取組過程 – 北海道・旧雄別炭礦を事例として」
- 「米軍ハウスをめぐる社会環境の変遷と地域における役割の変化 – 福生市・瑞穂町を中心に」
- 「都市部住宅地域における「たまり場」の分析 – 世田谷区・杉並区を中心として」
- 「民間団体によるホームレス及び生活困窮者への支援活動と行政との協働に関する研究」
- 「地域子育て支援拠点事業の利用・運営実態に関する研究 – 熊本県上天草市を事例として」
- 「都心部のエリアマネジメント活動におけるイベントスペースの活用に関する研究 – 大丸有地区・新虎通り・新宿モア四番街を対象として」
- 「中国の文化産業における人材育成に関する研究 – 上海市の大学を中心に –」

教員の主な研究内容

1) 大都市都心部（インナーエリア）の社会変化と地域社会への影響

（横浜・寿町、カナダ・バンクーバーで長期にわたりフィールドワークを実施）

- ・ 高齢化、障がい者の増加にともなう福祉施策・支援の対象の増加（サービスハブ化）
- ・ 外国人・移民の増加と定着（グローバル化）
- ・ 都心部再開発にともなう地価上昇、ジェントリフィケーション（住民層の入れ替わり）
- ・ 貧困問題、ホームレス問題、COVID19

→ これらが大都市都心部、とりわけ低所得地域にどのような影響を及ぼしているか？ そこでどのような社会関係、集団行動が見られるか（住民運動など）、またその変化は？

2) 原発避難者をめぐる社会変化と課題（首都圏、福島県内など）

- ・ 2011年の福島原発事故にともなう長期避難の問題
- ・ 地域再建・生活再建と課題、「帰還」政策の避難元地域・避難者への影響と課題

★その他、外国人住民、移民・難民等の支援に関わる市民活動にも実践的に関わっていますので、そうした研究テーマについても対応、指導できます。

教員の主な研究成果

- ・ 山本薫子「原発被災自治体・富岡町10年の軌跡」佐藤彰彦ら編著『原発事故被災自治体の再生と苦悩——富岡町10年の記録』第一法規、2021年。
- ・ 山本薫子「貧困をめぐる社会運動」長谷川公一編著『社会運動の現在：市民社会の声』有斐閣、2020年。
- ・ 山本薫子「カナダ・バンクーバーの都市インナーエリアにおける生活困窮者支援と地域経済活性」文部科学省科学研究費2015年度～2017年度 基盤研究(C) 補助金「現代都市下層地域の福祉化にともなう社会的包摂・社会的排除」報告書、2018年。
- ・ 長谷川公一・山本薫子編『原発震災と避難』有斐閣、2017年。
- ・ 山本薫子「ジェントリフィケーションに抗する都市下層地域—居住保障と地域経済活性化の取り組みを中心に—」『日本都市社会学学会年報』34、2016年。
- ・ 山本薫子ほか『原発避難者の声を聞く——復興政策の何が問題か——』岩波書店、2014年。
- ・ 山本薫子「福祉化する都市下層地域における社会的包摂/排除—カナダ・バンクーバーにおけるハウジングファーストによるホームレス支援施策を中心に—」『年報社会学論集』27、2014年。
- ・ 山本薫子『横浜・寿町と外国人—グローバル化する都市下層地域』福村出版、2008年。

その他の業績等は以下をご覧ください。

<https://researchmap.jp/kahorukoyamamoto>

都市で起きている「人々に関わる事象」の大半が都市社会学の研究対象です。ぜひご自分の関心に基づいてテーマを選んでください。